

【熊本県文化協会賞】

松橋 日本一のあいさつ

宇城市立松橋小学校 6年 中田 光瑛

三年生、後期前半に始めようと決めました。一年生の時に心がけていたことを、三年生になって開始しました。九月の初め、ぼくは、仲の良い友達をなん人が集めて「なんでも屋」という集まりを作ってボランティアをしていました。最初はクラスメイトからたのまれた仕事を少しこなしていただけでしたが、それでもひまな自分は、毎週水曜日、校門であいさつ運動を行っている生活委員の人たちを見て「あれやってみたい!」と思うようになりました。

できる限りひまな人を集めて、学校に来たらすぐに準備をして、校門に一直線に向かいました。最初のうちは声もあまり出なかったし、あいさつを返してくれる人も数えられるくらいしか居ませんでした。そうして、三年生から四年生になりました。

四年生はとにかく色々な人を集めて、あいさつ運動を行いました。時には十四人くらいのクラスメイトがあいさつ運動に来てくれた事もありました。担任の先生からは、「なんでも屋、すごいね!」と言われた時もありました。あいさつをする声は大きくなってきて、返してくれる人も多くなりました。

五年生になった時、自分に大きな出来事が起きました。あいさつ運動を始めて約二年、日本善行会に、表彰される事になりました。努力なんて、積み重ねても何も報われないなんて、思っていたのに、努力なんてしてるひまないと思った自分がです。ただ校門に出てあいさつをしていただけの事がこんな事になるなんて思いもしませんでした。自分は知らず知らずのうちに、あいさつという努力を積み重ねていた事に気づきました。あいさつは自分の心を成長させてくれました。

六年生になった今も、あいさつ運動を続けています。四年生の時みたいな事は起きないけど、あいさつを返してくれる人はたくさんいます。友達もたまに来てくれたり、あいさつ運動をする時もあります。松橋小学校に来て、本当によかったと思います。なんでも屋になって本当によかったと思います。ありがとう。松橋小学校。ありがとう。なんでも屋と、あの時の自分。